

高雄地区 歴史文化の視点2

## 20. 農業用水と赤穂城下の水甕

### 【ストーリー】

400年前、池田家が加里屋に城と城下町を新たに築く際、低地であったために水の確保が大きな課題となった。当時の代官、垂水半左衛門は7km上流の山にトンネル（切山隧道）を掘削し、ここから千種川の水を取水することによって、城と城下町への導水を可能とした。

江戸時代の水道は、飲用水と農業用水を兼ねているのが一般的であり、赤穂でも浅野長直が戸島

新田村の開発のため、上水道に戸島用水を接続した。

近代までの農業用水は村ごとに築かれており、渇水時には水争いなど、緊迫することもあったが、昭和41（1966）年に赤穂市統合取水井堰が中山に完成し、問題は改善された。

かつての上水道を取水した木津には、今も取水口が設置され、赤穂市の水甕となっている。



高雄船渡取水井堰跡



切山隧道



導水路跡



道標地藏

